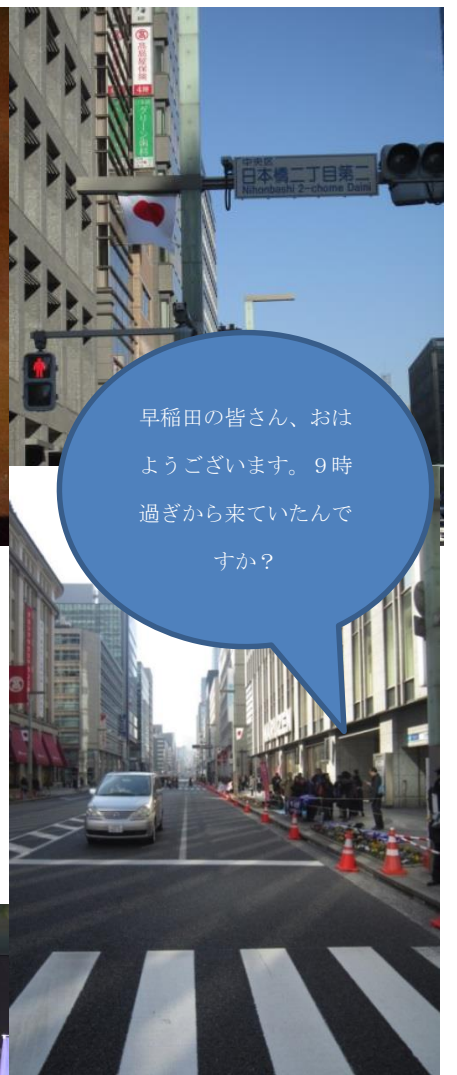


明治大学競走部、襷を繋ぐ復路

第92回東京箱根間往復大学駅伝競走の往路が、21チーム(20大学と1大学連合)の参加で1月2日東京・大手町～箱根・芦ノ湖の5区間107.5kmのコースで行われ、明治大学競走部は5時間43分22秒のタイム、17位で芦ノ湖にゴールしました。



前年4位の明治としては、優勝を目指してこの大会にのぞみましたが、残念ながら往路17位と出遅れました。しかし、復路での追い上げの走りを期待する多摩地区父母会応援団です。その期待は、もちろん私たちだけではありません。

午前11時、多摩地区父母会応援団が続々と丸善前に集合する。まだ時間も早く、この丸善前には今年もお隣さんとなった早大稲門会の皆さんだけでした。



応援準備、完了～!

多摩地区父母会応援団

さて、私たちが既に復路をスタートしている選手に負けまいと応援の準備を始め、まず最初にパカ、反対側の道路からパカ、準備出来たところでパカ。写真班の準備もバッチリ!

さて、この日本橋界限には、お隣さんの早稲田はじめ往路1位の青山学院大学等の応援グループも陣取っています。また、この近くでは各大学の応援団が真剣に応援をしていました。我が明大応援団も、選手に届かんばかりの声と演奏で必死の応援をしています。



幸いにも本日は快晴で、選手は勿論、私たちも気持ちよく応援出来る絶好の駅伝日和です。そんな天候にも恵まれ、この丸善の前は二重三重の人垣で一杯になり、私たちの応援席(席はありませんが、旗を立て、陣取っているところ)には、明治の現役学生、OB・OGの皆さんもぞくぞくと集まり、熱気を帯びてまいりました。そこで、気になるのは現在の総合順位です。



復路6区小川選手から7区・8区・9区とタスキを受け継ぎ、10区最終区間の山田選手まで繋いできたようです。明治の選手を待つ間、『今、何位かな？』、『順位、上がっているかな？』、『シード圏には入りたいネ』等々、皆の複雑な思いを抱きながら選手の通過を待っています。

やがて、ただならぬ緊張感が押し寄せて来ました。上空のヘリコプターの爆音、駅伝車両のアナウンスとパトカーの通過。そして、ウェイブのように迫る大きな応援の声。ついに来ました。復路も1位の青山学院大学です。



その後2位は東洋大、3位駒澤大、4位からは日本体育大、早稲田大、東海大、中央学院大、順天堂大と。そして、いよいよ来ました明治大・山田選手です。途中7区・牟田選手が区間3位となるタイムで8人抜きの走りで追い上げ、9区・斎田選手も区間4位のタイムで12位まで浮上。最終10区の子田選手が、シード圏内の10位を目指しましたが、残念ながら届かず、総合14位でゴールとなりました。

選手の皆さん、来年こそは優勝目指し、新たにスタートすることを願っています。



また、この大会を盛り上げ、沿道で参加大学の選手を必死に応援する現役の学生さんやOB・OGの方々と多摩地区父母会の皆さん方の姿が印象的でした。



全選手が通過し、テレビ報道で明治の総合14位が確定した事を確認し、ここで“恒例”の校歌斉唱となりました。『♪白雲なびく駿河台…オーオ明治 その名ぞ吾等が母校～♪』と、場所柄も(多少は)わきまえて、お節介にも道行く周りの方々最後の盛り上がりとして明治の意気込みを披露しました。

また、早大稲門会の皆さんとエールの交換も行い、『来年もこの場所で待ってるよ～!』と。



最後の最後に、現役の学生さん、OB・OGの方々、そして父母会会員の皆さんで来年の再会を約束し、『はい、め～い～じい～』と願いを込めた熱い記念の1枚です。



【撮影：岡本・掛井・星野、文・構成：星野】